

第9期古賀市介護保険運営協議会（令和8年度第1回）議事録

標題の件について、下記のとおり実施したので、古賀市介護保険運営協議会規則（以下「運営協議会規則」という。）第6条に基づき議事録を作成する。

1. 日時 令和8年5月21日（木）19時00分から20時20分まで

2. 場所 サンコスモ古賀 201・202 研修室

3. 出席委員 堤啓 会長、加藤功 副会長
峰松豊美 委員、新本瑞穂 委員、秋山実里 委員
白井ひろ子 委員、仲道誠明 委員、阿部友子 委員
永沼八重 委員、藤洋介 委員

4. 欠席委員 なし

5. 傍聴者 なし

6. 諮問・報告・議事

- （1）令和8年度介護保険運営協議会スケジュールについて
- （2）高齢者等実態調査の結果について
- （3）介護保険事業所の指定（更新）等について
- （4）令和8年度古賀市地域包括支援センターについて

7. 資料

- 【資料1】 令和8年度介護保険運営協議会スケジュールについて
- 【資料2－1①】 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書
- 【資料2－1②】 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果の主な事項
- 【資料2－2①】 在宅介護実態調査報告書
- 【資料2－2②】 在宅実態調査結果の主な事項
- 【資料3】 介護保険事業所の指定（更新）について
- 【資料4】 令和8年度地域包括支援センターについて

8. 会議内容

(1) 令和8年度介護保険運営協議会スケジュールについて 資料1

事務局より説明

【質疑】

○なし

(2) 高齢者等実態調査の結果について 資料2-1①～②、資料2-2①～②

事務局より説明

《委員意見》

- ・前回調査と比較して大きな変更は見られないとの説明があった。また、男性は女性に比べ自宅で過ごしたい傾向が見られることや、人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）については半数程度が未着手である状況から、さらなる周知・啓発が必要との意見があった。

【資料2-1①】問10.（1）「住んでいる地域の支えあいの実感」（P70）

【資料2-1①】問10.（2）「住民同士の支えあい、助け合いの必要性」（P72）

○地域に支えあい・助けあいがあると「感じる」と答えた人の割合が前回より増加（+9.2ポイント）している要因及び当該割合（52.9％）の水準に対する評価について質問があった。

⇒特定の要因は把握していないが、地域主体の活動が増えていることや、市全体での取組による影響が考えられる。

（P72）住民同士の支えあい、助け合いが必要と「思う」と答えた人の割合が83％であり、一定のニーズがみられる。一方、70Pにおいて地域に支えあい、たすけあいがあると「感じる」と答えた人の割合は前回より増加（+9.2ポイント）しており、少しずつ改善している。

また、目標値の達成のみで評価するのではなく、前回調査との比較による改善状況を踏まえて評価している。

○地域に関するコミュニケーションについて、さらに掘り下げた検討が必要ではないかとの質問があった。

⇒地域の支え合いに関する取組については、課題等を含めた掘り下げが必要であると考えており、今後の計画策定の中で検討していくこととした

【資料2-1①】問13.（3）「終末期に受きたい医療の話し合いの有無」（P81）

○人生会議の啓発について、どのような取組を実施しているか質問があった。

⇒福祉課では、昨年度、「わたしの思いを伝えるカード」を作成し、医療機関等へ配布しており、福岡東医療センターでは、患者への配布に活用いただいている。また、出前講座や広報を通じた周知も実施している。今後も地域包括支援センターとの協力を含め、継続して周知を図っていく。

【資料２－２①】問１（１２）「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」（P19）

○「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」および「外出同行（通院・買い物など）」について、支援・サービスが必要だと答えた人の割合が前回と変わらない状況であり改善が進んでいないのではないかと、また、地域によって交通の便が悪い状況があるが、地域格差への対応について質問があった。

⇒介護サービスが充実しても、一定層においては支援ニーズがあるため、現状のみをもって不足していると判断することは難しい。

交通の利便性に関する課題については、介護分野に限らず地域全体に関わる課題であり、本協議会の枠組みのみでの対応は難しい。

市の公共交通（のりーと、コガバス、西鉄バス、タクシー等）については、サービスがなくなるよう努めているが、すべての地域への対応は難しい状況である。

一方で、公共交通の広域化に関する取組（コガバスの小竹線（小竹地区～コスモス館）をJR新宮中央駅まで延伸）を開始しており、課題を少しずつ改善している。

《委員意見》

・取組を進めていることは理解できる一方で、依然として不便を感じ、外出を控える状況もあるため、引き続き改善に向けた取組を進めてほしいとの意見があった。

【資料２－２①】問４（４）「最期を過ごしたい場所」（P44）

○どの程度環境整備が進んでいるのか、また目標の達成状況について質問があった。

⇒次回議題に関連する内容であるため、次回あわせて説明することとした。

○国の見解および、今後どのような施策を進めていく考えか質問があった。

⇒全国でも同様の調査が実施されており、結果公表後は比較検討を通じて評価し施策を講じていく。

《委員意見》

・満足度は主観的な要素が大きく、指標として扱うことには難しさがあるため、引き続き前年度比較等を通じて状況を確認していく必要があるとの意見があった。

○市全体人口に対する介護認定を受けていない65歳以上の割合の変化、認定者のうち介護施設に入所している人の割合の変化について質問があった。

⇒割合の変化については、現時点では判断が難しく、今後の計画策定の中で評価していくこととした。

《委員意見》

・今後の分析にあたっては、割合の変化に関する分析についても含めてほしいとの意見があった。

(3) 介護保険事業所の指定（更新）等について 資料3

事務局より説明

○余香庵サテライトが廃止と記載されているが、同じ敷地内のハイマート桑の実についても廃止したのか質問があった。

⇒敷地は同じであるが別サービスであるため、ハイマート桑の実については廃止していない

○天神介護センターの廃止について詳細を知りたいとの質問があった。

⇒経営状況の悪化により廃止した。利用者については、他事業所へ引継ぎを行っている。

○集団指導および運営指導の内容、実施結果としての課題、また業務継続計画（BCP）が全介護事業所で策定されているのか質問があった。

⇒運営指導では、基準に基づく要件充足の確認を行い、集団指導では、制度改正に関する説明や市からの案内を行っている。

業務継続計画（令和6年4月から策定が義務化。令和7年4月から未策定事業所は減算対象）については、一部に未策定の事業所もあるが、運営指導の機会を通じて、必要な指導を行っている。

《委員意見》

・本市では大きな災害は少ないものの、万が一に備えた計画の整備は必要であるとの意見があった。

○離職者防止研修の実施内容について質問があった。

⇒人材不足の解消に向け、新規雇用の確保に加え、離職防止を目的とした研修を実施している。本研修では、事業者同士のコミュニケーションの機会を設けている。

また、人間関係を理由とする離職が多いとの声を踏まえ、研修内容を設定している。

○人口減少に伴い、現場での対応がより求められると感じるため、今後も国や市による事業所への支援が必要ではないかの質問があった。

⇒必要な支援については、継続的な対応が必要と認識しており、前年度は物価高騰対策として、電気代や食事代に対する補助金支援を行ったほか、ハローワークと合同で就職面談会を開催し、雇用促進の取組を行っている。

(4) 令和8年度古賀市地域包括支援センターについて 資料4

事務局より説明

○「令和8年度介護あんしん相談会そえるて」第1回の実施内容について質問があった。

⇒当該内容については、関係者が出席していないため、詳細な説明は難しい。

○第2地域包括支援センターに在籍するコミュニティソーシャルワーカーについて、市の別事業の職員が兼ねているのか、当該センターの専任であるのかについて質問があった。

⇒市社協へ業務委託しており、社協内に各中学校区を担当する職員を配置いただいている。年代を問わず相談を受けており、必要に応じて地域包括支援センターと連携して対応している。

○地域包括支援センターと民生委員との関わりについて質問があった。

⇒毎月、地域包括支援センターの職員が民生委員・児童委員定例会に参加し、連携を図っている。

9. その他

議事録について

署名については堤会長と白井委員にお願いする。